

## 第2部 展示・イベント等事業レポート

### 第3章 その他の事業

# 『マンガって何？ マンガでわかる マンガの疑問』 監修・編集

**実施概要** 京都国際マンガミュージアムの公式ガイドブックとして刊行された『マンガって何？ マンガでわかるマンガの疑問』の監修・編集を、マンガミュージアムとIMRCが行った。●同書のベースとなっているのは、マンガミュージアムの常設展示「マンガって何？」である。この展示は、日本のマンガ文化の特徴を、小中学生や海外からの来館者——つまり、日本マンガについて詳しくない人たちに理解してもらうことを想定しつつ、当時、IMRC副センター長だったジャクリーヌ・ベルント氏監修で制作され、2010年に開設した。この常設展示は2020年にマイナーチェンジされたが、同書に直接反映されているのはその改訂版展示である。●同書には複数のコラムが挟まれているが、過去にIMRCに所属した研究者たち——猪俣紀子(茨城大学)、岩下朋世(相模女子大学)、表智之(北九州市漫画ミュージアム)、小川剛(京都精華大学)、雑賀忠宏(開志専門職大学)、杉本ジェシカ(龍谷大学)の各氏も執筆を担当している。

[文責=イトウユウ]

## 基本情報

### 監修・編集

京都国際マンガミュージアム/京都精華大学  
国際マンガ研究センター

### イラスト

ホリグチイツ

### アートディレクション

Neki inc.

### 発行

青幻舎

### 発行日

2024年4月11日

### 判型

A5

### 総頁

144頁

### 製本

並製

### 定価

1,980円(本体1,800円)

### ISBN

978-4-86152-950-4

C0079

## 書影



「マンガって何？  
マンガでわかる  
マンガの疑問。」



### マンガメディア年表 明治～大正

この年表は、新しい印刷技術によって、さらに大量複製が可能になった明治時代(1868-1912年)以降から始まります。近代に発達し、数多くの作者と読者をつないだ新聞や雑誌。こうしたメディアの登場こそ、マンガが大衆娯楽として発達していくための条件でした。マンガが発展していく流れを明治時代から平成時代頃までざっくりご紹介します！

1 THE JAPAN PUNCH 1863年5月号  
1862年創刊

2 『読者報』(日本橋) 1874年創刊

3 小説雑誌『読者』(読者社)  
『読者報』(1865年5月号 読者社)  
『読者報』(1877年創刊号 読者社)

4 『少年』(1905年) 1905年創刊号  
少年マガジン社 創刊

5 『少年マガジン』 1907年創刊号  
少年マガジン社 創刊

6 『少年』(1912年) 1912年創刊号  
少年マガジン社 創刊

7 『少年』(1917年) 1917年創刊号  
少年マガジン社 創刊

8 『少年』(1924年) 1924年創刊号  
少年マガジン社 創刊

9 『少年』(1928年) 1928年創刊号  
少年マガジン社 創刊

10 『少年』(1931年) 1931年創刊号  
少年マガジン社 創刊

11 『少年』(1934年) 1934年創刊号  
少年マガジン社 創刊

12 『少年』(1937年) 1937年創刊号  
少年マガジン社 創刊

13 『少年』(1940年) 1940年創刊号  
少年マガジン社 創刊

14 『少年』(1943年) 1943年創刊号  
少年マガジン社 創刊

15 『少年』(1946年) 1946年創刊号  
少年マガジン社 創刊

16 『少年』(1949年) 1949年創刊号  
少年マガジン社 創刊

17 『少年』(1952年) 1952年創刊号  
少年マガジン社 創刊

18 『少年』(1955年) 1955年創刊号  
少年マガジン社 創刊

19 『少年』(1958年) 1958年創刊号  
少年マガジン社 創刊

20 『少年』(1961年) 1961年創刊号  
少年マガジン社 創刊

21 『少年』(1964年) 1964年創刊号  
少年マガジン社 創刊

22 『少年』(1967年) 1967年創刊号  
少年マガジン社 創刊

23 『少年』(1970年) 1970年創刊号  
少年マガジン社 創刊

24 『少年』(1973年) 1973年創刊号  
少年マガジン社 創刊

25 『少年』(1976年) 1976年創刊号  
少年マガジン社 創刊

26 『少年』(1979年) 1979年創刊号  
少年マガジン社 創刊

27 『少年』(1982年) 1982年創刊号  
少年マガジン社 創刊

28 『少年』(1985年) 1985年創刊号  
少年マガジン社 創刊

29 『少年』(1988年) 1988年創刊号  
少年マガジン社 創刊

30 『少年』(1991年) 1991年創刊号  
少年マガジン社 創刊

31 『少年』(1994年) 1994年創刊号  
少年マガジン社 創刊

32 『少年』(1997年) 1997年創刊号  
少年マガジン社 創刊

33 『少年』(2000年) 2000年創刊号  
少年マガジン社 創刊

34 『少年』(2003年) 2003年創刊号  
少年マガジン社 創刊

35 『少年』(2006年) 2006年創刊号  
少年マガジン社 創刊

36 『少年』(2009年) 2009年創刊号  
少年マガジン社 創刊

37 『少年』(2012年) 2012年創刊号  
少年マガジン社 創刊

38 『少年』(2015年) 2015年創刊号  
少年マガジン社 創刊

39 『少年』(2018年) 2018年創刊号  
少年マガジン社 創刊

40 『少年』(2021年) 2021年創刊号  
少年マガジン社 創刊

41 『少年』(2024年) 2024年創刊号  
少年マガジン社 創刊

2010年に開設された  
マンガミュージアム  
旧・常設展示(左)と、  
2020年に  
マイナーチェンジされた  
現・常設展示(右)。



# 国内外での 展示等 協力事業

## 国内における協力事業

- 「佐藤史生原画展 決して眠らない魚のみる夢」  
IMRC/京都国際マンガミュージアムが所蔵する、佐藤史生作品原画が全面的に活用された展覧会。4期に分け、約100点の作品(マンガ、イラスト、スケッチ等)の原画が紹介された。この展示に伴って、原画の整理がより進み、また、ビジュアルブック『総特集 佐藤史生 少女マンガが夢見た未来』(河出書房新社、2024年)の出版も実現した。

**担当** ユースギョン

**期間** 2024年6月28日[金]–10月20日[日]

**会場** 明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館

**主催** 明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館

**協力** 京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター/  
河出書房新社/図書の家/川崎市市民ミュージアム



「佐藤史生原画展」  
会場の様子。

- 「マンガと戦争展」  
京都国際マンガミュージアムの企画展として2015年に制作された「マンガと戦争展 6つの視点と3人の原画から」はこれまで、国内2ヶ所、海外3ヶ所に巡回したが、本年度はさらに、以下の施設に巡回展示された。テーマの数は6つから4つ(「原爆」「特攻」「満州」「沖縄」)に減ったが、平和ミュージアムらしい補助解説と追加資料で、それぞれの内容はより充実したものとなっていた。また、同館オリジナルコーナーとして、おざわゆき「あとかたの街」、汐見夏衛・原作/マツセダイチ・マンガ「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」がリベラル紹介される「2つの物語」というコーナーが追加された。

**担当** イトウユウ

**期間** 2024年7月23日[火]–9月14日[土]

**会場** 戦争と平和の資料館 ピースあいち

**主催** 戦争と平和の資料館 ピースあいち

**協力** 京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター



「マンガと戦争展」  
ピースあいち展  
会場の様子。

「吾妄之境」展  
会場の様子。

- 「吾妄之境 The Fantasy Wonderland」展  
BL(ボーイズラブ)をテーマとする大規模展覧会に、  
竹宮恵子氏の原画(ダッシュ)100点が出展された。  
これは、東アジアにおける初めての原画(ダッシュ)出展協力となった。

担当 ユースギョン

期間 2024年11月15日[金]–2025年3月16日[日]

会場 台南市美術館[台湾・台南市]

主催 台南市美術館



- 「CUTE」展  
「CUTE(かわいらしき)」をテーマに、それが反映された様々な文化を、  
「CUTE」をテーマとするアート作品と共に紹介する話題の展覧会に、  
60年代–90年代の少女マンガ雑誌を提供するという形で協力した。  
同展においては、サンリオのキティや水森亜土のイラストなど、  
日本の少女カルチャーの影響が重視されていた。

担当 ユースギョン

期間 2024年1月25日[木]–4月14日[日]

会場 Somerset House [英国・ロンドン]

主催 Somerset House

# マンガ資料の アーカイブ事業

**実施概要** 国際マンガ研究センター(IMRC)/京都国際マンガミュージアムは、設立以来、マンガ資料(当初はマンガ刊本、後にマンガ原画)のアーカイブ——〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉——の実践を目的のひとつとしてきた。●2010年度に始まる「メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業」以降は、マンガアーカイブの体制を推進するネットワークの構築とハブとなる拠点の確立を目的とする文化庁メディア芸術事業の重要な役割を、IMRCは担い続けている。●文化庁事業は、産官学連携を通じたメディア芸術の振興を目指してきたが、その結果として、出版社による賛助金の出資と参加を得て、2024年6月に「一般社団法人マンガアーカイブ機構(MAC)」が設立、IMRCのセンター員はそこでも中心的な役割を担っている。

## 文化庁メディア芸術事業

### 基本情報

#### 担当

吉村和真(「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」および「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」統括アドバイザー)/  
伊藤遊(同統括アドバイザー支援)

**実施概要** 文化庁によるメディア芸術アーカイブ事業の第3フェーズと言える「メディア芸術連携基盤等整備推進事業」の最終年度(5年目)の事業として、「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」および「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」という2つの事業が実施され、IMRC/京都国際マンガミュージアムは、連携機関として参加した。●同事業に関しては、戦略立案および事業評価等にIMRCのセンター員が委員として参画している。

### 事業一覧

#### ● 「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

##### 実施事業

(「実施計画書」より)

- マンガ刊本アーカイブセンター(MPAC)の実装及び刊本資料のさらなる利活用推進のための調査研究
- 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備
- 刊本プール資料の仕分けと移送に関する作業実験と検証結果の報告
- 原画/刊本事業の合同会議開催

##### 連携機関・団体

- 国立大学法人熊本大学(事業者)
- 明治大学 米沢嘉博記念図書館
- 京都精華大学/京都国際マンガミュージアム
- 北九州市漫画ミュージアム
- 高知まんがBASE
- NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト/合志市マンガミュージアム
- 少女まんが館

#### ● 「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」

##### 実施事業

(「事業計画書」より)

- マンガ原画アーカイブセンター(MGAC)の実装と所蔵館連携に向けた調査研究
- 相談窓口の開設
- 所蔵館ネットワークの構築
- 専門人材の育成
- 収益事業及び支援体制構築の調査
- 「集英社マンガアートヘリテージ(SMAH)」との連携による原画保存に関する共同研究の実践
- 原画/刊本事業の合同会議開催

##### 連携機関・団体

- 一般財団法人  
横手市増田まんが美術財団(事業主)
- 横手市増田まんが美術館
- 明治大学
- 京都精華大学/京都国際マンガミュージアム
- 北九州市漫画ミュージアム
- 熊本大学
- NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト
- 鳥取県北栄町
- 石ノ森萬画館
- 湯前まんが美術館

## 「一般社団法人マンガアーカイブ機構(MAC)」事業

### 基本情報

#### 担当

吉村和真(MAC理事)  
伊藤遊(MAC有識者会議委員)

**実施概要** MACが申請し、交付を受けた、文化庁「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」に協力する形で、森下清文氏、加藤泰三(F・M ロッカー)氏のマンガコレクション約10万点を「けい・いはんなオープンインベーションセンター(KICK)」(京都府相楽郡精華町)および京都国際マンガミュージアムにプール(仮預かりおよび簡易整理)し、それらのメタデータを、マンガミュージアムの資料データベース「MM-OPAC」で公開した。

# アニメーション 資料の アーカイブ事業

## 「精華ArchiveD」事業

### 基本情報

#### 担当

藤田健次/関口正春(学長室グループ)

**実施概要** 京都精華大学の協定先である京都府精華町が2023年度より実施している「文化庁京都移転を契機とした京都からの文化創造・発信事業」(内閣府:デジタル田園都市国家構想交付金(新しい地方経済・生活環境創生交付金)採択事業)の一環として企画された「アニメ・アーカイブデータ化及び利活用実証事業」を受託し、精華町と、株式会社ワンピリングとの産学官連携にてアニメーション資料のアーカイブ事業(通称「精華ArchiveD」)に取り組み、以下の研究活動を実施した。

- 1 アニメーション中間生成物(カット袋内資料:原画、動画、タイムシート等)のデジタル化
- 2 先行するアーカイブ実施団体とのメタデータ項目に関する研究会の開催(3回)
- 3 研究成果の公開、アウトリーチ
  - ・ 学内向け成果説明会の開催
  - ・ 在学生による「精華ArchiveD」展示会の開催(精華町にて3回開催)
  - ・ 在学生による「精華ArchiveD」小冊子の作成、配布

上記活動と併せ、文化庁へのオンライン説明会および現地視察対応を実施した。

# 京都国際マンガミュージアム / IMRC所蔵資料 および画像データ提供一覧(2024年1月-12月)

## 貸出

資料名	データ/現物	提供先	用途
<ul style="list-style-type: none"> <li>『週刊マーガレット』1969年5月25日号 (浦野千賀子「アタックNo.1」表紙号、集英社、1969年)</li> <li>『週刊マーガレット』1972年5月21日号 (池田理代子「ベルサイユのばら」表紙号)、集英社、1972年</li> <li>『週刊少女コミック』1976年2月29日号 (竹宮恵子「風と木の詩」表紙号)、集英社、1976年</li> <li>『なかよし』1992年2月号 (武内直子「美少女戦士セーラームーン」表紙号)、講談社、1992年</li> <li>『なかよし』1996年6月号 (CLAMP「カードキャプターさくら」表紙号)、講談社、1996年</li> </ul>	現物貸出	Somerset House (UK)	「CUTE」展 (於:Somerset House、1/25-4/14) にて展示
<ul style="list-style-type: none"> <li>『週刊少年ジャンプ』1984年12月3日号 (鳥山明「DROGON BALL」連載開始号)、集英社、1984年</li> <li>『週刊少年ジャンプ』1994年4月4日号 (鳥山明「DROGON BALL」表紙号)、集英社、1994年</li> <li>『週刊少年ジャンプ』1980年7月7日号 (鳥山明「Dr.スランプ」表紙号)、集英社、1980年</li> <li>『週刊少年ジャンプ』1981年8月31日号 (鳥山明「Dr.スランプ」表紙号)、集英社、1981年</li> </ul>	現物撮影	中日新聞	「鳥山明さんを悼む」 (「中日新聞」2024年4月19日)に掲載
<ul style="list-style-type: none"> <li>富永一郎「ボンコツおやじ」『漫画サンデー』 1960年2月22日号、実業之日本社、1960年</li> <li>「漫画特集 富永一郎最新傑作集」『漫画サンデー』 1962年3月24日号、実業之日本社、1962年</li> <li>富永一郎「レコードになるボンコツおやじ」『漫画サンデー』 1962年3月31日号、実業之日本社、1962年</li> <li>富永一郎「[無題]」『漫画サンデー』 1967年9月13日号p.p.22-25、実業之日本社、1967年</li> </ul>	現物貸出	吉備川上ふれあい 漫画美術館	「開館30年記念 富永一郎展～原画を読む」 (於:吉備川上ふれあい漫画美術館、 4/27-6/30)にて展示
<ul style="list-style-type: none"> <li>『週刊少年ジャンプ』1984年12月3日号 (鳥山明「DROGON BALL」連載開始号)、集英社、1984年</li> <li>『週刊少年ジャンプ』1994年4月4日号 (鳥山明「DROGON BALL」表紙号)、集英社、1994年</li> </ul>	撮影データ貸出	内閣府	「THE INPACT ON WORLD MANGA CULTURE AND LEGACY OF TORIYAMA AKIRA」 (オンラインマガジン「KIZUNA」5/24配信) に掲載
<ul style="list-style-type: none"> <li>竹宮恵子「永遠と陽炎」と「青い夕暮れ」「秋菊の舞」 原画ダッシュ 3点</li> <li>花村えい子「霧の中の少女」「霧の中の少女」 「ショウワノート マドレーヌ 着せ替え」原画ダッシュ 3点</li> <li>西谷祥子「マリイ・ルウ」「レモンとサクランボ」ほか 原画ダッシュ 3点</li> <li>忠津陽子「美人はいかがが?」「海の歌」ほか原画ダッシュ 3点</li> <li>飛鳥幸子「怪盗紳士♥アシモフ教授の華麗な冒険」 「最高に幸せ」ほか原画ダッシュ 3点</li> <li>『週刊マーガレット』1966年12月18日号 (花村えい子「霧の中の少女」掲載号)、集英社、1966年</li> <li>『週刊マーガレット』1970年4月12日号 (忠津陽子イラスト表紙号)、集英社、1970年</li> <li>『週刊マーガレット』1972年8月6日32号 (西谷祥子イラスト表紙号)、集英社、1972年</li> <li>『月刊マンガ少年』1979年5月号 (竹宮恵子「地球へ…」掲載号)、朝日ソノラマ、1979年</li> <li>『怪盗こうもり男爵』新書館、1979年</li> </ul>	現物貸出	川口市立 情報・映像 メディアセンター メディアセブン	「原画」(ダッシュ) 少女マンガの世界 マンガ原画の保存と活用」 (於:川口市立情報・ 映像メディアセンターメディアセブン。 5/25-7/28)にて展示
<ul style="list-style-type: none"> <li>「日本犬デー、街で見た風景」『東京パック』 1936年7月号、東京バンク社、1936年</li> </ul>	データ貸出	河合塾	河合塾マナビス(高校生対象) 共通テスト対策 歴史総合・日本史探求 「近代」習得度テストに掲載



・ 佐藤史生作品原画	現物貸出	明治大学 米沢嘉博 記念図書館	「佐藤史生原画展 決して眠らない魚(うお)のみる夢」 (於・明治大学 米沢嘉博記念図書館、 6/28-10/20)にて展示
・ 佐藤史生作品原画	現物貸出	河出書房新社	「佐藤史生原画展」 (於・明治大学 米沢嘉博記念図書館) で展示された作品を中心に 『総特集 佐藤史生 少女マンガが夢見た未来』 (河出書房新社、2024年)に掲載
・ 『週刊少年ジャンプ』1973年6月4日号 (中沢啓治「はだしのゲン」連載開始号)、集英社、1973年 ほか書籍資料56点	現物貸出	戦争と平和の 資料館 ピースあいち	「マンガと戦争展」 (於・ピースあいち、7/23-9/14)にて展示
・ よしながふみ『きのう何食べた?』第1巻、講談社、2007年 ・ ナナトエリ/亀山聡『僕の妻は発達障害』第1巻、 新潮社、2020年 ・ トマトスープ『天暮のジャードゥーガル』第1巻、秋田書店、2022年	現物撮影	京都新聞	「漫画は時代と直結 本音表れるメディア」 (『京都新聞』2024年8月2日)に掲載
・ 『時事漫画』(『時事新報』1922年5月28日付録)	データ貸出	NHK	NHK Eテレ 『偉人の年取How much?』 (10/21放映)にて放映
・ 「日本漫画家聯盟北海道支部主催第1回漫画展ラン会目録」	データ貸出	三人社	『日本漫画家聯盟機関誌 ユウモア【復刻版】』(三人社、2024年) に掲載
・ 『絵新聞日本地』第1号、神奈垣魯文/河鍋暁斎、1874年 ・ 『THE JAPAN PUNCH』1883年5月号、 Charles Wirgman、1883年 ・ 『TÔBAÉ』10号、Georges Ferdinand Bigot、1887年 ・ Rodolphe Töpffer 『Monsieur Pencil』 Garnier Frères、1860年	現物撮影	新潮社	『芸術新潮』2024年12月号 (特集「決定版 大京都」)(新潮社、2024年) に掲載
・ 田川水泡『のらくろ漫画集』講談社、1975年 ・ 西田静二『ロリタ姫と謎の騎士』榎本法令館 ・ 東風人・作、織田小星・画『正チャンの冒険(復刻版) 小学館クリエイティブ、2003年 ・ 謝花凡太郎『魔法の明ちゃん』中村書店、1933年 ・ 本田充臣『ふしぎな騎士 童話長編漫画』榎本法令館 ・ 宮春子『空中の木馬 漫画物語』榎本法令館 ・ 夢野凡『風船豆助 道中記:明朗時代漫画』榎本法令館 ・ 田河水泡『のらくろ二等兵』(名作リバイバルシリーズ) 普通社、1962年 ・ 林田正『チン吉の冒険』少年倶楽部、1931年 ・ 木内千鶴子、星城朗二『ゆめ』若木書房 ・ 横山まさみち『悪党ぞろい』横山プロダクション ・ 辰巳ヨシヒロ『マクベス復讐せよ』『ミステリー』62、 ホープ書房、1960年 ・ 辰巳ヨシヒロ『風花の挽歌』『週刊少年マガジン』 1970年11月1日号講談社、1970年 ・ オオトモ・ヨンヤス『影のない少女』中村書店、1952年	データ貸出	Stockholm University Press	I-Yun Lee (李衣雲) 『Taiwan Comics: History, Status, and Manga Influx 1930s-1990s』 (Stockholm University Press、2024年) に掲載

### 寄贈

資料名	データ/現物	提供先	用途
1970年代前半発行の 『週刊少年ジャンプ』『週刊少年サンデー』『週刊少年マガジン』 55点	現物再寄贈	熊本大学	
1970年代前半発行の 『週刊少年ジャンプ』『週刊少年サンデー』『週刊少年マガジン』 14点	現物再寄贈	広島市まんが 図書館	
1970年代前半発行の 『週刊少年ジャンプ』『週刊少年サンデー』『週刊少年マガジン』 6点	現物再寄贈	明治大学 米沢嘉博 記念図書館	

# 原画'(ダッシュ) プロジェクト

## 基本情報

担当  
ユースギョン

**実施概要**「原画'(ダッシュ)」とは、コンピューターに原画を取り込んで色調整を重ねた上で印刷された、原画と並べても見分けのつかないほど精巧なマンガ原稿の複製である。退色しやすいデリケートなマンガ原稿の保存と公開を両立させるために開発され、マンガ家で京都精華大学元学長の竹宮恵子氏をプロジェクトリーダーに、京都精華大学国際マンガ研究センターと京都国際マンガミュージアムが共同で研究を進めている。●原画'(ダッシュ)プロジェクトでは、2001年以来、監修者・竹宮氏を含む作家28名の約900点の原画'(ダッシュ)を制作している。(2023年をもって新規制作は終了)●今後の国際展開の拡大や継続のために、今年度は原画'(ダッシュ)関連冊子の各言語版(日・英・韓・中)のデータを更新し、年度末まで一部増刷も行う予定である。

**国内外における原画'(ダッシュ)の活用** 原画'(ダッシュ)は、破損や紛失したら取り返しが見つからない原画に替わって、国内だけでなく、フランス、ドイツ、オーストラリアなど、海外の展覧会にも積極的に出品されてきた。2024年度には、台湾の台南市美術館で2024年11月15日から2025年3月16日までに開催された「吾妄之境 The Fantasy Wonderland」に竹宮恵子氏の原画'(ダッシュ)が<sup>1</sup>出展され、東アジアにおける初めての原画'(ダッシュ)出展協力となった。

# IMRCメンバー業績等(2024年1月-12月)

## 業績一覧

<b>小泉真理子</b> Koizumi Mariko	<a href="#">学会発表</a>	・「日本の伝統実演芸術におけるマネジメントの変遷」 日本アートマネジメント学会第26回全国大会(於・札幌市教育文化会館、2024年12月15日)
	<a href="#">研究助成</a>	・科学研究費助成事業(基盤C) 「日本の能楽から解明する伝統実演芸術の経済的自立手法に関する実証研究」研究代表者
	<a href="#">社会活動</a>	・総務省情報通信政策研究所 特別研究員 ・情報通信学会学会誌 理事 及び 編集委員
<b>伊藤遊-イトウユウ</b> Ito Yu	<a href="#">論説</a>	・「『架空の通学路について』についての架空の考現学講義 あるいは〈考現学マンガ〉研究序説」 『ユリイカ』2024年1月号(特集=panpanya)、青土社、2024年1月
	<a href="#">コラムなど</a>	・「台湾のマンガ/展における〈歴史〉感覚——〈生活〉・〈政治〉・〈歴史〉」 『臺灣租書店與漫畫史的奇妙旅程 [漫画史不思議旅行 貸本屋さんと漫画の一〇〇年]』 [同名展カタログ] 國立臺灣歷史博物館、2024年3月
		・「マンガから民俗学を考える「日常系」マンガ、「考現学マンガ」、エッセイマンガ」 『現代思想』2024年5月号(特集=民俗学の現在)、青土社、2024年5月
		・「原田重光・原作、乙川灯・漫画、清水茜・監修「はたらく細胞Lady」 学校で読む教科書マンガから、「おうち」エンタメとしての学習マンガへ」 『現代性教育研究ジャーナル』NO.158、日本性教育協会、2024年5月
	<a href="#">講演など</a>	・講演「日本のマンガアーカイブ」 (「韓国マンガ・Webtoon学会春季国際学術大会 マンガと記録」、オンライン、2024年4月12日、 韓国マンガ・Webtoon学会・主催)
		・講演「マンガとて観光!?!」 (陽明寺創建五五〇周年記念事業、於・陽明寺、2024年5月3日、陽明寺・主催)
		・シンポジウム登壇 「日本マンガ学会第23回大会シンポジウム マンガと〈展示〉 第2部 ひろがりゆく〈マンガ展〉のかたち」 (於・京都国際マンガミュージアム、2024年6月23日、日本マンガ学会・主催)
		・鼎談(手塚るみ子/吉村和真)「『ブラック・ジャック展』スペシャルトークイベント」 (於・美術館「えき」、2024年9月1日、美術館「えき」・主催)
		・講演「戦後昭和マンガ史」 (令和6年度「れきはく講演会」、於・兵庫県立歴史博物館、2024年10月13日、兵庫県立歴史博物館・主催)
		・講演「〈戦後〉史としての戦争マンガ」 (於・京都国際マンガミュージアム、2024年12月5日、ディボール大学・主催)
	・対談(佐藤守弘)「静止した映画・動く劇画」 (「おもちゃ映画ミュージアム第一幕終幕記念 活弁上演で蘇るキネマ画「忠臣蔵」」、 於・同志社大学、2024年12月8日、同志社・主催)	
<a href="#">展覧会</a>	・キュレーション「のこす!いかす!! マンガ・アニメ・ゲーム展」 (於・京都国際マンガミュージアム、2024年11月23日-2025年3月31日)	
<a href="#">その他</a>	・科学研究費助成事業(基盤C) 「『学習マンガ』の表現構造と制作現場における意味生成プロセスの実証的研究」 (研究代表者=山中千恵)研究分担者	
	・科学研究費助成事業(基盤C) 「1930~50年代児童雑誌における『学習マンガ』ジャンルの形成に係る実証的研究」 (研究代表者=瀧下彩子)研究分担者	
	・挑戦的研究(萌芽)「メディア文化研究における研究データ蓄積・共有環境のモデル構築」 (研究代表者=喜多千草)研究分担者	
	・文化庁メディア芸術連携等基盤推進事業 「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」/ 「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」コーディネーター支援	
	・熊本県湯前町まなかのまちづくりアドバイザー	
	・一般社団法人マンガアーカイブ機構(MAC) 有識者会議委員	

<b>具本媛</b> Koo Bon Won	<p><u>書籍</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>The Cambridge companion to manga and anime</i>, Cambridge University Press, 2024 (共著、「14 Manga Editors and Their Artists」担当)</li> </ul> <p><u>展覧会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「What an OHINATAful World ～この素晴らしきおひなたごうの世界～」 (於・京都国際マンガミュージアム、2024年3月14日～6月25日) 企画</li> </ul> <p><u>セミナー出演</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ セミナー出演「マンガの新機軸——縦読みマンガが拡張する物語——」 (令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業成果発表イベント「ENCOUNTERS」サテライト企画、於・FabCafe Tokyo, 2024年2月21日)</li> <li>・ セミナー出演「日本マンガ高等教育の現状と展望」 (日本Webtoon市場進出戦略セミナー、於・チョンガン大学、2024年1月16日)</li> </ul>
<b>住田哲郎</b> Sumida Tetsuro	<p><u>論文報告等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住田哲郎・山中司・牛窪隆太(2024)「生成AI時代の言語文化教育を考える——新たなアプローチと課題の模索——」『言語文化教育研究』22号, pp.273–285, 言語文化教育研究学会.</li> <li>・ 住田哲郎・山中司・牛窪隆太(2024)「第5分科会 ことばの教育はいかに変わる“べき”か」『大学コンソーシアム京都 第29回FDフォーラム報告集』, pp.85–100.</li> <li>・ 住田哲郎(2024)「役割語とキャラクターの関係性——いわゆる(王様語)の分析を通じて——」『京都精華大学紀要』57号, pp.85–90.</li> </ul> <p><u>講演・学会等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口頭発表「日本語母語話者のライティングにおける丁寧体・普通体の併用に関する一考察」台湾日本語学会 2024年台湾日本語学会国際学術シンポジウム(中国文化大学), 2024年12月14日</li> <li>・ 講演「日本語が創るキャラクターの世界」2024年度 花園大学日本文学科公開講演会(花園大学), 2024年11月30日</li> <li>・ 口頭発表「日本語の作文指導における文体の統一と混用について——学習者のより豊かな作文表現力の向上を目指して——」(加藤伸彦・津坂朋宏・黄慧・劉との共同研究発表)日本語教育学会 2023年度第4回支部集会(オンライン), 2024年3月16日</li> </ul> <p><u>発表</u></p>